

# 令和8(2026)年度 事業計画書

令和8年4月

大阪国際学園

## 令和8年度 大阪国際学園 事業計画

大阪国際学園は、学園内連携を強化して教育の充実を図り、「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間の育成に努める。さらに自治体、教育機関、企業等と魅力ある地域を共創し、地域社会の発展を目指すことで、地域に愛される学園となる。この実現に向け、大阪国際学園は以下の取組を行う。

### 1. 地域社会との共創

地域間競争が激しくなる中、若い世代を中心に、人々が居住したいと思う魅力ある街・地域づくりが必要である。この認識の下、学園及び各設置校は、自治体、教育機関、企業等とともに活力に満ちた地域を共創する。

#### 具体的取組

- ① 幼児教育・保育を通じた京阪沿線の地域活性化の一環として、『大阪国際学園子育て支援センター』のもと、地域の親子の交流の場を設けるとともに、学内の教育資源を活用した各種講習等を通じて子育ての支援を行う。
- ② 中学・高校・短大・大学は、地域全体の関係者と連携して、国が推進する『地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革』を支援し、地域の中学校に指導者を派遣するなど生徒に豊かで幅広い活動機会を提供できるよう取り組む。
- ③ 地域の人々が誇りを感じる街づくりに向け、様々な取組を行う。そのひとつとして、本が溢れる地域を目指す。知的好奇心が生まれ、豊かな心が醸成される街・地域を共創する。各設置校において読書活動を活性化させるとともに、地域の小・中学生に図書館を開放、また企業や公共図書館等とも連携し、研修会や読書イベントなどを行う。

### 2. 学園内連携の強化

各設置校は、学校単体としてだけでなく、学園内のこども園、中学、高校、短大、大学との連携をさらに推進して教育の充実に取り組み、地域社会の発展を支える人材を輩出する。

#### 具体的取組

- ① 高校未来探究コース・幼児保育進学コースの生徒の短大・大学への内部進学に向け、高大連携体制を強化して高大連携授業、体験型プログラム、単位互換・資格取得支援等の実現・充実に取り組む。
- ② 高校幼児保育進学コースは、短大幼児保育学科と協力して、高校・短大5年間の教育課程教育内容を整備し、地域に必要とされる幼児教育・保育人材の養成を行う。

- ③ 短大幼児保育学科・高校幼児保育進学コース・こども園は、園児や地域の子どもたち・生徒・学生・教員が互いにふれあい成長しあう実践的な教育「ふれ育」を、3校園で連携して推進する。

以 上

## 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

### 1. 教学改革の推進

全人教育を基礎として、学生一人ひとりの満足度を最大化する教学改革を推進する。認証評価第4サイクルへの対応やIRの強化・活用を通じ、教育の質保証と授業力の抜本的改善を図り、実践的で満足度の高い学修環境を構築する。

重点施策は以下の通り。

- ① アセスメントプランの着実な運用により、学修成果の可視化と改善を図る。
- ② 新任教員研修やFD活動の更なる強化により、ICT機器を活用したきめ細やかな教育を徹底する。
- ③ 学部独自の体験型・実践型教育の更なる深化により、学生満足度の向上を図る。
- ④ 退学率半減に向けて、学生一人ひとりに寄り添う「共育」を実践する。

### 2. 募集活動の強化

2030年以降の18歳人口再減少を見据えた新募集戦略を策定し、大学・短大の安定的な定員確保を目指す。高大連携、情報発信をより一層強化し、教育内容の魅力を的確に伝える募集活動を展開する。

重点施策は以下の通り。

- ① 教育協定校への探究授業提供等の出願者増加施策を実施する。
- ② 併設高校からの内部進学のための高大連携の強化を図る。
- ③ 留学生・通信制高校・地方（沖縄県を含む）への対策を実施する。
- ④ SNS等を活用した情報発信体制を強化する。

### 3. 国際交流活動の推進

「世界に通用する人間」の育成を目的に、学生が参加しやすく学修成果につながる国際交流プログラムを構築するとともに、語学研修、ボランティア、教職・就職につながる交流プログラムを整備・充実させる。また、将来の日本人の少子化に備えた留学生確保に取り組む。

重点施策は以下の通り。

- ① 協定校との交流研修および学部・学科との協働研修の強化を図る。
- ② 研修費用サポートのための奨学金・支援制度を充実させる。
- ③ 留学生募集を強化し、留学生の確保に努める。

- ④ 留学生別科の方向性を検討する(認定日本語教育機関の認定)。

#### 4. 地域交流活動の推進

「地域と共に歩むOIU&OIC」を掲げ、教育・研究資源を活かした地域貢献を推進する。産官学連携を通じて学生の学びを深化させるとともに、出前授業・各種教室等、地域社会に貢献する人材育成を推進し、大学・短大の社会的評価の向上を図る。

重点施策は以下の通り。

- ① 学部・学科の専門性を活かした産官学連携を強化する。
- ② 京阪沿線地域における幼児保育活動での連携を推進し、その拠点化を行う。
- ③ 出前授業や地域教室等を通じた地域貢献活動を推進する。
- ④ 地域から大学・短大につながる活動を推進する。

#### 5. 課外教育活動の推進

課外活動を学生の人間力向上と地域貢献の重要な柱と位置づけ、課外活動の充実を図る。課外活動を通じた高大連携や地域連携を積極的に推進し、青少年育成活動等へと展開することで学生の人間力向上を図り、その成果を本学の特色ある教育の一環として発信していく。

重点施策は以下の通り。

- ① クラブ活動の強化指定と体制強化を図る。
- ② 活動場所・設備の計画的整備を検討する。
- ③ クラブ活動を通じた高大連携を展開する。
- ④ 地域の中学・高校の部活動支援として指導者派遣を行う。

#### 6. キャリア教育と就職支援の強化

学生の多様な進路志向に対応し、全学共通の体系的キャリア教育を実施するとともに、学生一人ひとりの志向や適性に応じたきめ細かな就職支援を展開する。

重点施策は以下の通り。

- ① 学部・学科の学びと連動した体系的なキャリア教育を実施する。
- ② 就職活動の早期化・長期化・多様化に対応した支援体制を強化する。
- ③ フレンドリー企業との連携を強化し、更なる求人の質向上を図る。
- ④ 外部評価等を通じて学生の強みの可視化を行い、就職活動の支援強化を図る。

以 上

## 大阪国際中学校高等学校

### 1. 財務改善の取組の推進

令和7年度より取り組んでいる特待生制度の見直し等の諸施策の実行とともに、中長期的改革案を検討する。

#### ① 経費削減策の着実な実行

- ・令和8年度以降の奨学金制度の見直しと外部委託費の削減を実行し、経費の削減につなげる。
- ・人件費や業務委託費など諸経費を教育的効果の観点から精査し、令和9年度以降の事業計画に反映させる。

#### ② 中長期的な削減検討の視点

- ・シンボリッククラブに対する補助のあり方
- ・IBコースの授業料のあり方
- ・中高一貫教育のあり方
- ・習熟度別クラス展開のあり方

### 2. 募集広報活動の戦略的展開

令和7年度入学者急増により募集定員を満たす一方、高校の学年間在籍人員のアンバランス解消が課題となっている。令和9年度は、中学の維持と高校のクラス数の安定化に向けて募集活動を行う。

#### ① 教育理念をベースに「選ばれる」学校をめざす

「めざす生徒像」実現につながる教育活動を訴求するアウトブランディング活動（募集イベント、ホームページ、SNS、個別相談会等）は継続して注力する。地域的には、大阪市内の更なる強化と学校数の多い枚方市の回復を重点とする。

#### ② 各コースの特色を生かした募集戦略の展開

##### 『中学』

中高一貫教育のあり方を見直し、丁寧な指導と入学後の学力伸長度、年々、関心の高まる英語力強化・国際教育に特徴をおいた教育内容をPRする。特に好評の在籍生徒による校内イベントの参加協力を継続し、中学教育の実態を伝える機会を重視する。

##### 『高校IBコース』

海外帰国生の囲い込みに向けて、11月に帰国生入試・オンライン入試を実施。コースの取組内容の周知・浸透を図るべく、授業見学会・体験会・個別相談会の実施や中学校進路指導主事向けの説明会・体験会なども継続

して実施する。

『スーパー文理探究コース』

立志式とリンクさせた推薦入試や総合型選抜に強い進路指導や、他校には無い「薬学特講」、「看護特講」などの取組をアピールする。

『未来探究コース』

内部進学コースであることの認識を徹底するとともに、高大連携の強化進展をPRし、内部進学につなげる。

『幼児保育進学コース』

一昨年度の応募実績と本年の差の分析を進め、減地域は、重点的に説明を行い、応募者増を目指す。

### 3. 教育内容の充実

「基本戦略プラン」に沿った学校運営を実施し、「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」をめざした教育を実践する。

- ① 4つの特色的な学びを通じた社会人基礎力の修得  
「人間をみがく」「国際感覚をみがく」「創造力・表現力をみがく」「個を支える」学び・プログラムを展開する。
- ② 「めざす生徒像」の浸透と授業内容・評価との連動展開  
開校と同時に制定した「めざす生徒像」を、授業や行事、課外活動などを通じた能力開発や生徒評価の際の基準としても活用していく。
- ③ 小笠原流礼法と挨拶運動  
IBコースを除く高校のすべてのコースで小笠原流礼法の授業を正課で実施。「思いやりの心」や「感謝の気持ち」を育み、人間形成の基盤とする。また、学校をあげて挨拶の大切さを教え、生徒・教職員皆が挨拶を励行する学校をめざす。
- ④ スタートプログラムの展開（中1・高1対象）  
生徒の「学び」と「人間形成」のための土台づくりとして、入学直後に本校独自のスタートプログラムを展開。学ぶ意義と姿勢を理解し、学校生活をスタートするにあたってのモチベーションを高める。
- ⑤ 立志式の実施（中2・高2対象）  
入学時より、自らの志を立てることの大切さやそれをサポートする講演などの取組を展開。2年次の年度末に“志論文”を書き、立志式で自らの将来の目標を宣言する。それをモチベーションとして、質の高い学びからの進路実現につなげていく。また、進路指導についても、入学時からの上記流れを汲んだ形でプログラムし、昨今比重の高まっている推薦入試や総合型選抜入試に強い学校をめざす。

## ⑥ 探究授業の強化

令和7年度より、新規に「探究部」が発足した。現行の総合探究では、外部委託により社会人講師とつながりを持って探究活動を行うこと、その活動を通して社会に何らかの働きかけを行うこと（社会実装）、探究活動を通して自己を知ることを軸とした授業が展開されている。

8年度以降、高校三年間を通して、本校独自の総合探究を実施できるよう抜本的見直し、具体的には、①高校一年生の一学期に、探究活動に必要なツール・スキル、アカデミックライティングの技法を学ぶ「キノプロ」の実施、②高校一年生の二学期に高校二年生と共同で実施、かつ直接顔を合わせて地域の企業や大学と連携しつつ行う地域連携型「ゼミ」の実施（学校単独経営のゼミ含む）、③高校二年生の三学期に、これまでの取組から自己を振り返り、志を文字に表す「志論文」の執筆、④高校三年生で、いかなる形で自己の進路を実現するかを探究する「進路探究」、の4つのフェーズに分けて総合探究を運営していく。これにより、①教員自身が生徒と共に実施する授業づくり、②生徒の好奇心を重要視した探究活動、③地域の企業・大学と連携した授業運営、をねらいとする。

## ⑦ グローバル教育強化

国際バカロレアコースの展開、イマージョン教育の実施、英会話力強化プログラム等の導入などにより、英語コミュニケーションスキルの向上を図る。

また、海外研修・留学制度の充実や交換留学生の受入、その他国際交流などを通じ、GLOBAL MINDの醸成を図る。

## ⑧ ICTを活用した教育の展開と充実

Chromebookを一人一台配備し、時代の要請に応えるICT活用教育を展開する。IT専門スタッフのあり方について、引き続き検討する。

## ⑨ 図書館の活用

外部委託業者との提携関係を最大限活用し、約2万冊の蔵書を活かした読書活動（朝読書、ビブリオバトル、本の帯プロジェクトなど）を推進し、言語活動の充実を図ると共に、探究活動に寄与する蔵書計画を推進する。また、知的好奇心が育まれ、豊かな心が醸成される街・地域を共創するため、地域の小・中学生への図書館開放を目指し、企業や公共図書館等とも連携し、研修会や読書イベントを行う。

## ⑩ シンボリッククラブの一層の躍進と経費のあり方

強化クラブ・準強化クラブの一層の躍進とともに、経費面からの補助のあり方について、検討する。

## ⑪ 大阪国際大学・短期大学部（OIU/OIC）への内部進学推進（高大連携）

令和7年度に新設し、1期生を迎えた「未来探究コース」及び、「幼児保育進学コース」の生徒をOIU/OICへの内部進学に繋げる施策を大学・短大とともに推進する。

・高大連携プログラムの策定・展開

新メニュー「高大連携授業」「OIU/OIC体験型プログラムへの参加」等を通じてOIU/OICへの理解を深め、高校3年間で大学・短大入学後に活躍、成長できる土台作りを行う。

・入口・出口戦略

生徒募集時（オープンスクール等）での内部進学プログラムの魅力訴求により、内部進学希望者で定員確保を図る。

高校3年間の段階的「内部進学に向けた進路サポート」プログラムの展開により、生徒一人ひとりの「志」を踏まえた内部進学推進を図る。

⑫ 高校IBコースへの内部進学

高校IBコースへの内部進学を視野に入れた中学イメージ授業の具体的なあり方の検討と新設定の「リフレクション」授業の具体的な取組とその成果の検証を行う。

⑬ 生徒相談体制

不登校などによる転・退学者の増加傾向に歯止めをかけるため、担任、学年主任、保健室及び支援室との連携を強化するとともに、スクールカウンセラーの相談時間枠火～土の5日間を維持し、生徒・保護者・教職員への支援体制を継続する。

#### 4. 人材開発と組織改革

教員の指導力強化、組織風土の改革、働き方改革を通じ、組織総合力を強化する。

① OJTの充実（メンター制度と授業研究）

新任教員を対象に、年度初めに導入研修を実施。本校の概要・制度・体制を早期に知り、円滑なスタートを切れるようサポートする。また、ピアサポートプログラムにて専任任用換教員が新任教員の仕事面・メンタル面のサポートを行う体制をとり、新任教員の成長を支援するとともに、専任任用換教員も自らの学びの場とする。さらに、新任教員への教科指導担当配置、新担任への学年主任等のフォロー強化により、弱点補強に万全を期す。「研究授業」は春と秋の年2回、授業見学期間を設け、研究協議も行う。昨年度好評だった探究分野と人権意識強化の面からの講演会を開催予定である。

② Off-JTの推奨

「教員力」の強化に向け、Find! アクティブラーナー「オンライン研修」の活用を推奨する。「オンライン研修」は各種コンテンツが豊富にラインナップされており、ビジネススキルの習得や他校教員、一般企業社員との交流も可能であるため進めていく。

③ 働き方改革

・土曜日休業を機に、さらに組織運営上の無駄・非効率を排除し、業務の生産性を高めることで、長時間在校教職員ゼロをめざす。

- ・教職員が「生徒に振り向ける時間」を極大化し、ひいては教職員の働きがい向上につなげていく。また、BLENDおよびGaroonなどのシステムやICT、生成AIなども活用し、校務全般の効率化も図る。
- ・教職員の就業規則変更と変形労働時間の勤務時間シフトの具体的な運用と土曜日出勤日の始業・終業時刻の変更により効率的な勤務を目指す。
- ・行事削減の効果を見極めるとともに継続検討案件について実施の可否を決定する

#### ④ 組織改革による業務の効率化

- ・昨年度より実施の校務分掌の改編により業務量のアンバランスを解消するとともに、管理職が分担して各分掌業務の進捗状況の管理と情報共有を図ることにより、学校運営のベクトルの一致や関連性の強化、効率化を進める。

以 上

## 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

### 1. 教育・保育の充実

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基礎となる力を培う幼児教育・幼児保育を実現する。「こども園教育・保育要領」に基づく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、健康な心と体、自立心、協調性など10の項目を重要項目として位置づけた取組を行う。園児が将来国際社会で活躍するために必要となる語彙力やネイティブ教員による英語力の基礎づくりのための取組を行う。

また、令和8年度から、地域の子育て世帯を対象に、親子の交流促進や育児相談、情報提供、講習等を実施し、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、すべての子育て世帯を支える事を目的に、子育て支援センター「トドラールームおひさま」を開設し、子育て支援の強化に取り組む。

### 2. 安全対策

「園児の安全確保をすべてに優先する」という精神を具現化した安全管理大綱を基に安全対策を徹底する。送迎バスについては安全運転を徹底するとともに、園児置き去りや虐待等については、職員会議や研修会等を通じ教職員の意識の徹底と二重三重のチェックを行い、園児の安全に万全を期す。

インフルエンザ等の感染症予防については、教職員と保護者との連携を密に感染予防・感染拡大の防止等、感染対策に努める。

園児の活動中においては、安全点検表を基に定期的に園舎や園庭遊具等の点検を行うとともに、その使い方についても検証し、安全で充実した園舎・園庭・遊具を存分に活用した教育・保育が展開できるように取組む。

### 3. 幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携

0歳児から5歳児までが活動する園舎では、園児の生活の流れや活動内容・行事内容についても異なるため、幼稚園教育の教諭と保育所機能の教諭並びに事務職員等が密に連携が取れるよう職員会議等を通じ情報交換を行い、全ての園児・教職員が安全・安心と充実した園生活を送ることができるように取組む。

また、全園児が係わりを持つ異年齢の活動を展開しながら、互いに認め合うことのできる人間関係を構築することができるように取組む。

### 4. 情報の発信と園児募集力

一段と少子化が進み園児獲得が厳しくなる中、幼稚園としての長い歴史で培った質の高い幼児教育をはじめ、0～2歳の園児と3～5歳の幼稚園園児の交流を通じ、幼稚園教育へのなだらかな移行等、本園ならではの特色ある活動をホームページ等を通じ

発信する。また、子育て支援センターに加えて、未就園児を対象として実施する子育て支援事業トドラーデーの充実を図り、地域の子育て支援施設として、その知名度の向上を図り募集力の維持向上に努めていく。

さらに、充実した園舎と本園ならではの大学施設の活用、大学・短大・高校・中学の教員・学生との交流・支援など、学園グループのこども園としてのメリットを積極的にPRするとともに、近隣小・中学校及び地域との交流・連携を深め、地域の子育てステーションとしての存在を高めていく。

併せて、国の少子化対策による社会保障の関係もあり、働く保護者の増加が進み保育所機能を求める声が多く、これに対応し安定的な園児確保を図るため預かり保育についても積極的に対応する。

## 5. 学園グループとの連携

学園グループで締結した、「保育・教育・研究連携協定」に基づき、大学・短大・中学・高校との交流を深め効果的な連携に取り組む。

また、こども園においては、保育者の専門性の向上が不可欠であり、保育教諭が大学教員から指導・助言を受けることで、保育教諭の資質向上につなげていく。

幼児教育・幼児保育現場にとって保育者養成の重要性が一段と増しているなか、短期大学の幼児保育学科及び国際高校の幼児保育進学コースとの連携を強化するとともに短大・高校と、こども園との協働により、保育者養成を充実させていく。

以 上